

# リサーチ・クリップ

2009/12/30 No.16

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題や、企業の従業員・地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する記事や情報を紹介します。

ESG

## EIRIS社 エマージング市場における投資機関の評価を集計

英国に拠点を置き、企業の社会面、環境面及び倫理面のパフォーマンス調査をグローバルに提供する非営利機関のEIRIS社は、エマージング市場における責任投資に関する調査結果を「Emerging Market Investor Survey Report」にまとめた。

同調査レポートは、ESG投資をエマージング市場への投資にも導入し、非財務要因からくるリスクを減らすための調査研究事業である、「The Emerging Markets Disclosure Project」の成果物である。

まずEIRIS社は、世界中のSRI投資やCSRに関する研究機関を通じて、ファンドマネジャーや年金基金などのアセットオーナーに対してアンケートを行い、67の機関投資家から回答を得た。その回答を分析した結果、回答機関がエマージング市場に投資している額は1300億ドル超となっている。

回答機関の属性を地域別に見ると、北米が43%、英国を除く欧州地域が30%、英国が13%、アジアが6%となっている。また、回答機関の内訳は、アセットマネージャーが55%、アセットオーナーが18%、その他が27%となっている。

図表1 地域別回答機関の状況



出所：「Emerging Market Investor Survey Report」を参考にNFI作成

これらの回答から解る事は、主に以下の5点である。

- ① ESG投資を行う投資家は、既にエマージング市場への投資経験が豊富である。
- ② 欧州の投資家は北米の投資家に比べ、エマージング市場に対するエクスポージャーがほぼ倍となっており、エマージング市場に対する欧州の積極的な投資状況が確認される。
- ③ 欧州の投資家は、エマージング市場の銘柄選択の基準にコーポレートガバナンスを重要視する傾向があり、ネガティブ・スクリーニングが主となっている北米と異なる傾向が散見される。
- ④ エマージング市場の最大の課題は、ESG（環境・社会・ガバナンス）情報の公開状況が不十分であること。
- ⑤ ESG情報の公開が、エマージング市場においてますます進展するためには、ESGが要求する公開事項や、新しいグローバルスタンダードや規範を、具体的に示していかなければならない。

回答機関が実際に投資している国のアロケーションや、投資銘柄の状況を見ると（図表2）、最も支持される投資先国はブラジルであり、個別銘柄で見てもブラジルのPetrobrasへの投資が最も多くなっている。

ブラジルは、2014年のサッカーワールドカップ開催や、2016年のオリンピック開催を控え、急速な経済発展が見込まれている。アンケート回答からも非財務情報であるESG情報の公開度が、エマージング国の中でも最も優れているという評価を得ており、特に欧米の投資家からの注目度も高い。

図表2 回答機関投資先アロケーション

投資先国のアセットアロケーション	エマージング市場上位10銘柄	ESG情報の公開度が優れている国
1. ブラジル	1. Petrobras(ブラジル)	1. ブラジル
2. 中国、インド、メキシコ	2. Samsung Electronics(韓国)	2. 南アフリカ
3. 韓国	3. China Mobile(中国)	3. 中国
4. ロシア、南アフリカ	4. Taiwan Semiconductor(台湾)	4. 韓国
5. 台湾	5. Teva(イスラエル)	5. インド
	6. Vale Do Rio Doce(ブラジル)	
	7. America Movil(メキシコ)	
	8. Gazprom(ロシア)	
	9. Posco(韓国)	
	10. Ambev(ブラジル)	

出所：「Emerging Market Investor Survey Report」を参考に NFI 作成

詳細は、公開されている同レポートにて確認することができる。

<http://www.socialinvest.org/resources/research/documents/EMDPsurvey.pdf>

(社会システム研究所 CSR 調査室 佐藤 拓人)